

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの確かな学力の育成と進路希望の実現に向け、学年制普通科としての教育課程の整備に取り組む。 ②生徒の課題発見・解決力及び、主体的に学ぶ意欲を高めることを目指し、組織的な授業改善に取り組む。	①学力の向上と進路希望の実現に向けた教育課程を編成し、生徒の学習意欲や探求心を高める環境を提供する。 ②授業改善を進め、基礎学力の定着と主体的な学習の取組を支援する。	①(1)本年度の教育課程の変更に伴い、生徒の適切な科目選択を支援するとともに、学力向上のための授業時間確保を図る。また、次期学習指導要領の理解を深める。 (2)新たな「高等学校基礎学力テスト(仮称)」・「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入に向けた研究を進める。 ②(1)教員相互の授業参観・研修会の実施と「生徒による授業評価」の有効活用を進める。 (2)「定期テスト前のフォローアップ週間」「夏期講習」を計画的に実施する。	①(1)授業時間が確保され、生徒の学力・学習意欲の向上が見られたか。また、選択科目の説明会を計画的かつ効果的に実施できたか。(「学校に関するアンケート(以下『アンケート』という)生徒満足度50%以上) (2)高大接続改革の情報収集と検討のための体制ができたか。 ②(1)授業参観者数を増加させることができたか。 (2)「生徒による授業評価」の有効活用ができたか。(満足度80%以上)	①(1)『アンケート』の「カリキュラム設定」の項目が高評価であった。生徒の実情をほぼ把握できていると判断できる。進路実現のための科目選択を適切に指導できた。 (2)「大学入学共通テスト」の概要を各教科に周知し保護者にも具体的に説明できた。 ②(1)「授業改善研究授業」期間に、教科間交流も含め積極的な授業改善を実施できた。 (2)『授業評価』では1回目より2回目に全ての項目で満足度が伸びた。授業内容の工夫が生徒の取り組みの改善につながった。	①(1)次期教育課程編成に向け検討を引き続き行い、移行をスムーズに行えるように準備する。 (2)各教科の対策、授業改善を進める。 ②(1)「授業改善研究授業」を活用し、より多くの教員が参加する環境を整備する。 (2)「生徒による授業評価」の今年度の結果を踏まえ、さらに生徒の状況を把握しながらより満足度の高い授業を目指す。	①(1)受験に必要な科目選択について、より細かい指導をお願いしたい。保護者にも説明を。 (2)学習指導要領の改訂、入試の変更にも対応した満足度の高い授業をさらに進めてほしい。 ②(1)教員相互の授業参観・研修会は評価できる。教師の指導法はもろんだが生徒の学びがどこで深まり、躓いているかという視点で取り組んでいってもらいたい。	①満足度・効果について一定の成果が見られた。また、新たな教育課程・大学入試に向けた研究を進めることができた。 ②授業改善、授業評価では、昨年度より進展があった。夏期講習等は計画通り実施することが出来、生徒・保護者の満足度も高かった。	①カリキュラムについて専ら検討するための会議を定期的に行い、研究を進める。 ②授業改善については指導法にとどまらず、生徒の学びにも視点を向けながら、基礎学力の定着に向け取り組んでいく。
2 生徒指導・支援	①生徒の豊かな人間性・社会性を培うために、規範意識を育成するとともに、社会の一員として自他を尊重し、自身の将来像を描く力を育てる。 ②生活全般の安全意識の向上に向けた取組みを進め様々な課題に対し、解決に向け取り組む意志や実践していく力を育てる。 ③各種機関・保護者と連携しながら生徒理解	①生徒一人ひとりの豊かな心を育み、規範意識・自己教育力を育てる。 ②登下校の安全意識・交通安全意識の向上を図る。 ③個に応じた支援・相談体制を充実させる。	①(1)学校行事の精選、部活動の校内整備と充実を努める。 (2)遅刻・清掃・挨拶に対する生徒の意識向上をはかる。 ②(1)不審者や事故の情報を提供する。 (2)「いじめ防止基本方針」及び「同対策マニュアル」に基づき未然防止に向けた取組みを行う。 ③スクールカウンセラーや専門機関との連携、各種講演会の開催を通してきめ細かな教育支援を行う。	①(1)学校行事と部活動における生徒の満足度が昨年度を上回ったか。 (2)遅刻数が減少し、校内美化が進み、挨拶ができるようになったか。 ②(1)犯罪被害や交通事故の防止に効果を挙げられたか。(『アンケート』生徒満足度50%以上) (2)いじめ防止に向けた方針及び取組内容が職員に周知され組織的にいじめに対応できたか。(『アンケート』生徒満足度50%以上)	①(1)学校行事と部活動における生徒の満足度が昨年度を上回った。 ②(1)自転車やバス内のマナーについては地域からの情報提供で、交通ルール遵守に対する意識が向上した。 (2)日常の生徒情報の把握と共有によりいじめの発見と早期解決・見守りができた。 ③スクールカウンセラーや関係諸機関との連携を密に行い、生徒が抱える様々な	①(1)学校行事と部活動の意義や達成感を効果的に引き出すよう取り組んでいく。 ②(1)交通事故の危険予見性の育成と生活全般を通じた安全行動の指導が課題である。 (2)いじめの把握には、アンケートに加え、普段の生徒観察が重要なので教師の意識を高める取組みをすすめる。 ③生徒のニーズに応えられるよう、スクールカウンセラーの勤務日数の増加を要望するとともに、専門的な機関等との連携を推進する。	①(1)学校行事の外への発信を。生徒の励みになる。生徒会とPTAの連携の場を。 ②(1)自転車の乗り方、バス乗車のマナーの改善が感じられる。さらに安全行動意識を高めてほしい。スクエアドストレート等検討を。犯罪被害の防止のため消費生活知識の学習、防災意識の涵養を。 (2)SNSなどによるいじめ防止の指導計画も必要。 ③生徒指導では他機関との	①学校行事・部活動を通して生徒の成長を促すことができた。規範意識とマナーがやや向上した。校内美化の指導ができた。 ②地域からの自転車マナーに対する苦情がある。いじめ未然防止を図る。 ③教育相談コーディネータを中心とした教育相談体制を整備する。	①部活動・行事を充実させ入部率の向上を目指す。 ②通学経路の安全や服装・身なりの指導、「交通安全教室」の内容を検討する。いじめの未然防止を図る。 ③教育相談コーディネータを中心とした教育相談体制を整備する。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		を深め、教育相談・支援体制の充実を図る。			③十分な生徒相談・教育支援を行えたか。(『アンケート』生徒満足度50%以上)	課題に対応できる体制づくりが進んだ。		連携は不可欠。カウンセラーの勤務日数の増加を要望し続けてほしい。	連携を生かすことができた。	
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが自己の生き方、あり方についてとらえることができるよう、計画的・継続的なキャリア教育を推進する。	①全教科で取り組むキャリア教育実践プログラムを実施し、検証していく。 ②職業観・勤労観を育てる。	①キャリア教育において身につけるべき諸能力を育成することを意識した教育活動の展開に努める。 ②各学年に応じた進路ガイダンスを実施する。	①教育活動の様々な場面で社会生活・職業生活に必要な技術・技能を育成できたか。(『アンケート』生徒満足度50%以上) ②生徒が自己の生き方やあり方について考えるのに有効な機会を十分与えられたか。	①総合的な学習の時間や教育活動を通して、社会生活・職業生活に必要な知識等を身につける取組みができた。(『アンケート』生徒満足度60%以上) ②各種ガイダンスや体験授業等の実施により、望ましい職業観・勤労観を育成し、進路を具体的に考えるための意識づけができた。	①生徒の進路実現に向けて、きめ細かな指導を継続する。 ②進路について、具体的に捉えることができるよう、事前学習を充実させ、各種ガイダンスや体験授業等が実践的に生かせるように計画する。	①キャリア教育の取組として、さらにきめ細かな指導を続けてほしい。AI時代に対抗できる人間性を鍛えるキャリア教育を。働き方に対する意識づけにも取組を。 ②進路を考えることにプレッシャーを与えず、明るい未来を描けるようお願いする。	①教育活動全体を通して、生き方、あり方について考え、職業観や勤労観を高めることができた。 ②成長段階に応じたガイダンスや体験授業等を実施する必要がある。	①必要に応じて改善しながら、きめ細かな指導・支援を継続する。 ②生徒に段階的に生き方やあり方について考えさせるキャリア教育を計画的に実施する。
4	地域等との協働	①開かれた学校づくりを進め、家庭や地域と情報を交換する中で、相互理解と協力体制を確立しさらに進展させる。 ②HPや「お知らせメール」による、タイムリーな情報発信により地域からの理解を得るよう努める。	①学校行事全般を通して地域や保護者との連携を深め、開かれた学校づくりに努める。 ②学校の情報を確実に発信し、地域や保護者からの意見要望を参考に、より良い学校づくりを行う。	①学校へ行こう週間、PTA活動、保護者懇談会、学校行事、部活動等を通して、地域・保護者との連携を図る。 ②(1)生徒・保護者への配布物、HPの頻繁な更新、「西高お知らせメール」などで本校の活動の情報発信を行う。 (2)保護者、地域からの情報を生かし本校の発展に努める。	①本校の『アンケート』保護者満足度が昨年度を上回ったか。 ②(1)本校HPのアクセス数、「西高お知らせメール」の登録数が昨年度より上回ったか。 (2)保護者・地域からの情報を生かし改善がなされたか。	①『アンケート』保護者満足度は昨年度を上回った。 ②(1)本校HPの更新を頻繁に行うことでアクセス数が昨年度より増加した。また「西高お知らせメール」も生徒・保護者に定着し登録数は昨年度を上回った。 (2)懇談会での保護者アンケートを元に、校内美化等の意識が高まった。	①②保護者満足度はかなり高い。しかし、今後さらに相互理解と協力体制を確立したい。学校運営協議会の取組により、地域との連携をさらに進めていく。	①開かれた学校として、地域との連携、ボランティア参加などを評価する。今後も継続を。小・中ともよく連携した地域に根差した学校であることを高く評価している。 ②HPの更新を頻繁にしてほしい。さらに遊 ing 西高や西高コンサート等イベントの周知を。	①学校行事での地域や保護者とのふれあい、地域の行事等への生徒の参加が評価を得られた。 ②HPの更新が遅れることがあった。「西高お知らせメール」が有効活用できた。	①コミュニティースクールとして、さらに地域・保護者等との連携を学校づくりに生かす。 ②定期的かつタイムリーなHPでの情報発信、更新に努める。
5	学校管理 学校運営	①事故防止の徹底を図るとともに、教職員が前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 ②生徒の防災意識を高め、安全対策を強化する。 ③耐震化工事を計画的に進めるとともに、事故防止に努める。	①各種校内研修(OJT)、事故防止会議を充実させる。 ②生徒の防災意識を高める。 ③耐震化工事を関係機関と十分な連絡調整を行い、計画的かつ安全に推進する。	①各種校内研修及び事故防止会議の充実を図り、教職員が前向きに課題に取り組める学校を形成する。 ②防災訓練を実施し、生徒及び職員の動きを確認するとともに、防災意識を高める。 ③西棟から仮設校舎への移転、及び西棟の耐震化工事を計画的かつ安全に推進する。	①各種校内研修5回及び事故防止会議10回以上を実施する。 ②計画通りに防災訓練を実施することができ、生徒及び職員の防災意識は高まったか。 ③関係機関と連携しながら、校内移転及び耐震化工事が計画的かつ安全に実施できたか。	①5回の校内研修と11回の事故防止会議を実施し、職員の資質向上につながった。 ②5月と9月に避難訓練、消火訓練、降下訓練等を実施し、防災意識が高まった。 ③8月に西棟から仮設校舎への移転を安全に実施できた。	①今後も研修を実施し、職員の資質向上に努める。 ②工事終了後は地域との連携を検討する。 ③西棟の耐震化工事など、今後も県関係機関と連携しながら安全に努める。	①事故不祥防止については、繰り返し伝え続けていくべき。 ②地域との連携を視野に入れた防災教育を望む。高校としての役割を発信していくべき。 ③校舎の改修を楽しみにしている。工事期間の避難経路など特に意識を高くもって動きの確認などをお願いしたい。	①事故防止研修を計画通り実施した。 ②防災訓練の内容を発展させ、防災意識を高めることができた。地域との連携が課題。 ③工事での連絡調整に努めた。	①職員研修による事故防止に努める。 ②地域と連携した防災教育の実施。 ③今後の工事に向け、生徒の避難経路等、安全確保に努める。